



人間はどうやって生まれてきたの

人間とサルの仲間の祖先は同じ動物

わたしたち人間の祖先が、今のわたしたちと同じ姿で、ある日、とつぜん地球上に現れたかという、そうではありません。初めて二本足で大地に立つ人間が現れたのは、今から、約400万年くらい前だといわれていますが、その人間は、ほかの動物たちと同じように、もとは、もっと原始的なものから進化したものなのです。

人間にいちばんよく似ている動物は、サルの仲間です。このサルの仲間の祖先は、わたしたち人間の祖先と、同じ原始的な動物なのです。

人間とサルの仲間とに別れたのは進化の問題

わたしたちが、今、生きているのは、わたしたち人間の祖先の命が、親から子へ、子から孫、孫からひ孫というように、次々とバトンタッチされてきたからです。

このバトンタッチが、何万回も何十万回もくり返されるうちに、人間など生き物は、体のつくり(構造)や形が変化していきます。このことを、「進化」といいます。

人間とサルは、同じ祖先から、何千年、何万年という長い時間をかけて、人間は人間として進化し、サルはサルとして進化してきたのです。

今、わかっている最古の人間は、今から約400万年ほど前に、東アフリカにすんでいた、「アファール猿人(アウストラロピテクス・アファレンシス)」とよばれる動物です。

このアファール猿人が、子孫を残しながら、次の世代へとつないできた約400万年の間に、少しずつ体のつくりや形が変化して、現在のわたしたち人間が、生まれてきたと考えられています。すべての動物は、同じ祖先の動物からわかれて進化してきましたが、共通の祖先がどんな動物だったのかは、まだ、よくわかりません。(監修・保志 宏)

